

読書のすすめ

テーマ

「宇宙」

時が経つのは早いもの。気が付けば今年も残すところあと1カ月ほどになりました。すっかり肌寒くなり、冬の到来を感じる方もいるのではないのでしょうか。夜の時間も長くなり、見上げれば満点の星空が広がっています。遠くの宇宙や星々に思いをはせてみませんか。

『すばらしき宇宙の図鑑』 野口聡一 (KADOKAWA)

国際宇宙ステーションに長期滞在した宇宙飛行士、野口聡一さんの著書。全ページ読み仮名付きなのでわかりやすく、親子で楽しめる内容です！遙か彼方に広がる宇宙を身近に感じられる1冊です。



『世界でいちばん素敵な月の教室』 浦智史 (三オブックス)

毎日の天気が違うように、月も毎夜違った顔をしています。この本では、Q&A方式で月の満ち欠けや月に関する雑学を写真付きで紹介しています。読み終わったあとの月は、いつもと違って見えるかもしれません。



『暗闇のなかの光』 ハイノー・ファルケ (亜紀書房)

光さえも逃れられない重力を持つ天体は「ブラックホール」と呼ばれます。その目に見えない天体は、ついに2019年に撮影されました。参加した科学者の1人が、当時の感動をノンフィクションで振り返ります。



とっておきの一冊を紹介します

推理小説の好きな方も、そうでない方も、ぜひ一度読んで、アガサの魅力に触れてみてください。



衝撃でした。

推理小説の好きな方も、そうでない方も、ぜひ一度読んで、アガサの魅力に触れてみてください。

この本は、富豪のアクロイドを殺害した犯人を捜す話です。何重にも登場人物のうそと実態が混ざり、犯人が最後まで分かりません。そして、名探偵ポアロの推理がとて面白く、推理が進むたびにどうなっていくのかドキドキさせられました。アガサの代表作と知っていましたが、この時代にこのトリックを完成させていたことにも驚き、まさかのラストで衝撃でした。

およそ一世紀前に出版された本ですが、トリックに古さを感じませんでした。洋書のため、カタカナの登場人物になれるまで少し時間がかかりましたが、あの人もこの人も怪しいと思いつつ、物語に引き込まれ、一気に読了しました。

私のおすすめする本は、イギリスの推理小説家のアガサ・クリスティーが書いた「名探偵ポアロ アクロイド殺し」です。

名探偵ポアロ アクロイド殺し
著：アガサ・クリスティー
訳：羽田詩津子 (早川書房)



とき読書っこクラブ
土岐津中学校2年
西野 いろは 色華さん

土岐市図書館 ☎55-1253

12月の休館日

2日、9日、16日、23日の月曜日、27日(金)～31日(火)
※変更があった場合は、図書館HPやX(旧Twitter)でお知らせします。

開館時間

▶火～金曜日 10:00～19:00
▶土・日曜日、祝日 10:00～17:00

図書館からのお知らせ

「おもしろ本大賞」の投票を11月30日(土)まで受け付けています。毎年幅広い年代の方に投票していただいています。ぜひあなたの今年の「おもしろ本」を教えてください。2次元コードから投票できます。※結果発表は12月1日(日)です。

